

不運を一時的なものとしみなす

すべてのことは一時的な現象である。人生で経験するすべての勝利、敗北、喜び、悲しみはいずれ過ぎ去る。

今日、非常に重要に見えることでも、1カ月後や3カ月後にはもはや重要ではなくなっている。今日、災難のように見えることでも、3カ月後には素晴らしい学習経験になる可能性がある。

私は大学を卒業後、どの会社からも断られて9カ月も仕事がなかった。友人たちは私を哀れんだが、それだけでなく、私も自分を哀れんだ。しかし、これだけ断られたのだから、よりよいものが待っていると思うことにした。

最終的に、私はスペインのバルセロナで働くことになった。美しい海岸と多様な文化を持ち、快適な地中海性気候（1年のうち約300日が晴れている）に恵まれた世界最先端の創造都市の1つだ。

友人たちはそれを知って、私への態度を哀れみから羨望へと一変させた。具体的に言うと、それまでの「かわいそうなやつだ」が、たちまち「いい目をしやがって」に変わったので

ある。

人生をもつと気楽に考え、「不運なことはいずれ過ぎ去る」と信じて心を落ち着かせよう。イギリスの作家キプリングは「勝つておこらず、負けて腐らず、つねに平常心を保とう」とアドバイスしている。

自分がほしいものに意識を向け、ひたすら前進を続けよう。「どんなにつらいことでも、半年後にはそれについて笑えるようになる」という格言がある。

学生時代、私が試験前に徹夜して疲れ果てたとき、寮の友人が「半年後には今夜の経験について笑えるようになるさ」と言った。20年近くたつても私たちはいまだに当時を回想して笑っている。

ぜひこのテクニックを試してみよう。私に役立つのと同じように、きっとあなたにも役立つはずだ。